

防災・減災プロジェクト

私たちは、忘れない。

このプロジェクトは、今もなお、被災地で苦しんでいる人たちに思いを寄せるとともに、災害で得た教訓や経験を生かし、将来起こりうる災害に対応する力を、社会全体で育んでいく活動です。地域の皆さまと一緒に「防災・減災」をより地域社会に普及・浸透させていく未来志向のプロジェクトとして活動です。自分の大切な人やいのちを守るために、日ごろから防災や減災について考えてみてください。

参加していただいた企業・団体様からプロジェクトに対する想いをお聞きました。

参加企業の声



株式会社とりせん 様

株式会社とりせんでは、北関東及び埼玉県のスーパーマーケット全60店舗で「防災・減災プロジェクト～私たちは、忘れない。～」に参加し、ポスターの掲示、防災啓発、家庭備蓄の推奨などに取り組んでいます。

当プロジェクトに参加することで、お客様や従業員の防災・減災への意識向上に努めるとともに、あのとき感じた様々な「思い」を忘れることなく、将来起こり得る災害への対応力を高めていくことを目指しています。

スーパーマーケットは地域のフードライフラインを担っています。当社の経営理念である「商業を通じて地域社会のお客様の為に奉仕する」に基づき、地域の皆様の安全な生活に貢献して参ります。

今後も当プロジェクトの推進、そして日本赤十字社群馬県支部の活動を微力ながら協力していきます。



群馬ヤクルト販売株式会社 様

群馬ヤクルト販売は、ヤクルト商品のお届けを通して健康社会の実現を目指しています。市町村との連携も積極的に進め「健康増進、食育推進」にとどまらず「見守り支援、防災及び災害対策」等、様々な取り組みを行っています。

中でも県内33か所に拠点を持つ宅配部門では、620名のヤクルトスタッフが、お客様のお宅や事業所に「健康と美」をお届けするとともに、人命救助や特殊詐欺を未然に防ぐなど地域の安全や安心にも貢献し、高い評価を得ています。また当プロジェクトのパートナーとして、東北復興支援企画(三陸を中心とした東北地域の商品を販売)を実施し、売上げの一部を寄付する活動を毎年続けています。

今後も「～私たちは忘れない～」を胸に刻み、当プロジェクトの推進ならびに日本赤十字社群馬県支部の活動に、微力ながら協力していきたいと思ひます。



ぐんまの赤十字

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

人間を救うのは、人間だ。
Our world. Your move.

第23号 | 令和2年4月



繋がる赤十字



国や地域を問わず、
救うことを続ける活動は広がっています



あなたの街の赤十字

群馬県支部 この一年の活動

災害救護活動

昨年10月に本県を襲った台風第19号に対して、日赤群馬県支部は、前橋赤十字病院の群馬県災害医療コーディネートチームを含む3名が群馬県庁のDMAT調整本部に入り、県内及び他県の被害状況の把握や医療ニーズ、他県へのDMAT派遣などの調整業務を実施しました。また、避難所開設された市町村からの救援物資の要請に対応し、赤十字防災ボランティア協力のもと毛布の搬送を実施しました。赤十字飛行隊群馬支隊、県飛行隊支援奉仕団、県無線赤十字奉仕団は連携して群馬県・長野県・栃木県の被害状況調査を実施し、県内の防災ボランティアの方々からも多くの情報提供があり、一人ひとりが災害救援、減災への意識を強くもち、活動しました。

さらに、被害の大きかった福島県いわき市へ救護班を派遣し、いわき市平第四小学校体育館内にて臨時救護所を開設し診療を実施しました。



国際活動

赤十字は192の国と地域に存在し、各社は世界的なネットワークの基、紛争や災害時にはお互いに活動支援を行っています。日赤群馬県支部は「バングラデシュ南部避難民保健医療支援事業」に支援をしています。2017年8月にミャンマーのラカイン州で発生した暴力行為により、約70万人が隣国バングラデシュへ避難を余儀なくされ、避難所生活を送っている90万人以上の難民がいます。現在、日赤は避難民キャンプでの医療救援や保健医療支援事業を実施しています。



災害への備え

いざという時のため、日頃から救護訓練を実施し、職員の技術向上とともに関係機関・団体との連携強化に努めています。また、防災ボランティアによる災害時協力体制を強化するため、情報収集や災害救護資機材の使い方などの研修も実施しています。

日赤の長期ビジョンである「誰一人取り残さない救援」を推進するため、自治体の防災訓練への参加や、地域の防災力を高めるための防災セミナー実施などを通して、減災にも地道に取り組んでいます。



いのちと健康を守る講習

ボランティア指導員の協力を得て、「救急法」「健康生活支援講習」「水上安全法」「幼児安全法」の4講習を実施しました。当支部主催での数日間にわたる養成講習はもとより、県内各地からの依頼を受けて様々な地域や職域・学校などでも講習を実施しました。2019年度は県内で300回以上実施し、総勢約10,000人の方が受講されました。赤十字の理念である「いのちと健康を守る」活動を県内の方々に広め、日常生活の中で活用できる知識や技術の普及に努めました。



たすけあいの心を育む

地域で活動するボランティア(地域奉仕団)は、お祭りや防災訓練で、炊き出し食の体験や非常時に役立つ福祉活動体験などを実施し、地域の人々と自助・共助による防災意識を高める取り組みをしました。

青少年赤十字(JRC)では、群馬・茨城・栃木の北関東三県の中高生メンバー14名をマレーシアへ派遣し、学校訪問や現地赤新月社の活動に触れ、異文化交流を通して互いに尊重しあうことの大切さを学び、世界中でつながっている赤十字の輪を感じてきました。夏休み中は県内各地から児童生徒が集まって共同生活のもと「気づき・考え・実行する」活動に取り組むリーダーシップ・トレーニング・センターを実施し、小中高総勢106名のメンバーが参加しました。さらに、県内各学校の校長等を対象とした「校長等対象青少年赤十字研修会」では、高崎市立久留馬小学校と玉村町立玉村中学校の実践発表や、高崎健康福祉大学の金井教授を招いて地域教育における共助の大切さや、ボランティア学習と地域づくりの連携についてお話をいただきました。

